

社 会 科

1. これまでの取組(前年度からの課題を含む)

前年度の研究で、構想「未来提案タイム」を設定し、身に付けた知識・技能を活用し、よりよい社会の実現に向けて議論する活動を通して、社会的事象を多面的・多角的に考察し新しい価値を構想する力の向上を目指した。成果として、「振り返りシート」を活用して学習したことを整理し、「未来提案タイム」において、よりよい社会構築のための議論を重ね、社会的事象を多面的・多角的に考察し新しい価値を構想する力を高めることができた。課題は、タブレット端末から得られる検索情報だけで調査を済ませてしまい、当事者意識や社会的事象がおこる本質的な理解を十分深めることができていなかった。また、単元の課題の設定において、社会的事象に対する興味・関心を高められず、自ら主体的に課題を解決し社会参画しようとする態度の育成という点では不十分であった。

今年度は、より生徒の興味・関心に基づいた単元の課題を設定し、ICTを有効活用して信憑性が高く、根拠になり得る情報を収集し、整理・分析できるようにする。さらにICTを活用して、友達や専門家などの多様な他者と協働的に学習を進め新たな学びを生み出しながら、主体的に課題を解決し社会参画しようとする生徒の育成を目指したい。

これらのことから、以下のようにICTを有効活用していくこととした。

2. 社会科における「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実させるICTの活用

「学習の個性化」では、生徒の興味・関心に応じてタブレット端末を活用し、単元の課題の解決に必要な情報を、収集できるようにする。収集した情報を経験則や他者のアドバイスから、種類や特徴などによって整理・分析の方法を判断させ、自分と社会とのつながりを意識させ予想の正誤を確かめながら学習活動を進めることで、課題解決への意欲を継続させ、より一層高めることができるようにする。

「指導の個別化」では、ロイロノートに提出されたワークシートやプレゼンテーション、振り返りシートを基に生徒の学習状況を把握しながら、根拠の妥当性や調査の方向性などに気付かせ、生徒が学習を自己調整しながら進められるようにすることで、主体的に学習に取り組む態度を養う。

「協働的な学び」では、多様な他者の考えやアドバイスから別の視点や立場に気付いたり、ロイロノートの共有ノートを活用し、他者の考えと比較・検討する中で共通性や特殊性を明らかにしたりする活動を通して、社会的事象を多面的・多角的に考察する力を高める。また、メール機能などを活用し、専門家等の外部人材に、興味・関心に基づいてアクセスすることで、新たな考えや社会的事象の見方や考え方に出会い、主体的に課題を解決し社会参画しようとする意欲を高められるようにする。

このような「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体として充実させる活動を通して、社会的事象を多面的・多角的に考察する力をより一層高め、よりよい社会の実現に向けて課題を主体的に解決しようとする態度の育成を目指す。

3. 問題解決の各過程におけるICTの活用(社会科の単元における活用例)

問題解決の過程	ICTの活用
つかむ	個 これまでの学びを蓄積し活用するため、ロイロノートのクラウド機能を使用する。 個 生徒の興味・関心を高めるため、アニメーションを活用した資料提示をする。
追究する	個 地図アプリを活用して、共通性と特殊性の情報収集をする。 個 ロイロノートへの提出物を基にして、学習状況に応じた個別の支援をする。 協 メールやzoom等を用いて、外部人材の活用をする。
まとめる	協 Jamboardを活用した協働作業により、課題に対する結論の検討をする。 個 単元での学びを記録し、次単元の学びにつなげるためにロイロノートへ蓄積する。

2年 北海道地方（全7時間計画）

（地理的分野・日本の諸地域）

単元の目標

- ・北海道地方について、その地域的特色や地域の課題を理解することができる。
- ・北海道地方の特色ある地理的な事象を他の事象と関連付けて多面的・多角的に考察し、表現することができる。
- ・北海道地方について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究しようとしている。

ICTの活用のポイント 個 協

つかむ

1. 単元の課題をつかむ。

○単元の課題を設定し、学習の見通しをもつ。

「なぜ北海道は、魅力度ランキング1位なのか？」

- ・北海道地方を特色付ける地理に関わる事象や、既習の知識から生じた疑問や興味を基に、産業を中核とした単元の課題を設定し、予想を立てる。

個 単元の課題を解決するために追究する内容を設定することで、学習計画を自己調整しながら、学習意欲をもたせ、根拠に基づく自分の考えを表現できるようにする。

個 つかむ過程において、プレゼンテーションソフトやアニメーションを活用することで、既存の知識を引き出すとともに、「産業」「生活」「歴史的背景」などの視点に興味・関心が向くようにする。

追究する

2. 単元の課題解決に向け、単位時間ごとに追究する。

○単元の課題を解決するために、追究する内容を設定する。

- ・単元の課題の解決に向けて、産業を中核として興味や関心が高まった事柄から、追究する内容を設定する。
- ・設定した追究する内容にアドバイスしてもらい、他者の意見や考えを参考にして、自らの考えを再構築する。

個 ロイロノートに提出されたワークシートを基に追究の見通しを問うことで、考えの根拠の妥当性や調査の方向性などに気付き修正ができるようにする。

協 追究する内容の妥当性について、議論する活動を設定し、他者への意見やアドバイスをJamboardに書き込むことで、新たな視点や立場に気付き再考できるようにする。

協 メール機能などを活用し、外部人材にアクセスすることで、課題解決に向けた意欲を高めるとともに、当事者意識を反映したまとめができるようにする。

○北海道地方の地域的特色や課題について、追究する内容に着目して調べる。（次ページ「興味・関心に基づいた追究する内容の設定」参照）

- ・北海道地方の地域的特色や課題について、他者からの多面的・多角的なアドバイスを参考にして、根拠となり説得力を高める資料を収集し、解決に向けて整理・分析をする。
- ・外部人材を活用して、当事者の考えを知り、課題解決に関連付けまとめる。

○北海道地方の地域的特色や課題について、追究して分かったことを共有する。

- ・追究活動を進める中でわかったことをプレゼンテーションする。
- ・追究してきた内容をグループで共有し、共通する「北海道の魅力の原点」をまとめ、クラスで共有する。

個 Jamboardを活用し、話し合いの内容を記録することで、単元の課題の結論を構成する材料として次時の活動に反映することができるようにする。

個 ロイロノートに提出した一人一人のプレゼンテーションや振り返りシートを共有することで、自分が追究してきた内容が、他者の学習課題の結論とどのように関連付いて北海道の特色として共通しているのか見だし、単元の課題の結論につなげることができるようにする。

まとめる

3. 課題解決の過程を振り返り、単元の課題に対する結論をまとめる。

○単元の課題に対する結論をまとめる。

- ・産業に関する興味や関心を核にして進めた学習内容とクラスでまとめた「北海道の魅力の原点」を、結論を導く材料として自分の考えをまとめる。
- ・グループ→クラス全体で単元の課題に対する結論を話し合い、まとめる。

協 単元の課題に対する各自の考えをもち寄り、Jamboardで協働しながら、北海道地方の共通性や特殊性、課題などを見いだすことで、社会的事象を多面的・多角的に考察する力を高めることができるようにする。また、概念的な知識を構成していく。

<北海道地方>

<使用したアプリ等>
ロイロノート
Jamboard など

ICT 活用のポイント

追究する内容の吟味と Jamboard を活用した協働学習

他者からのアドバイスを参考に追究する内容の妥当性を考え再構築する活動を通して、北海道地方の地域的特色や課題を多面的・多角的に考察する力を高めることができる。

本時の課題をつかむ。

- 本時の課題を把握し、学習の見通しをもつ。

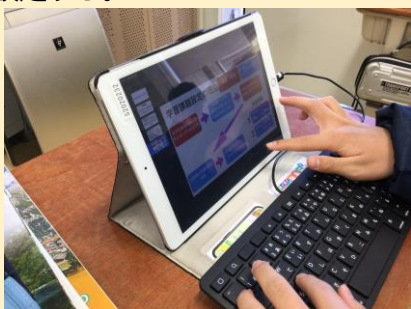


記録された学びを、本時の学びにつなげる

- 個 ロイロノートに記録した単元の課題に対する予想を振り返らせることで、その課題を解決するために必要な活動を見通し、本時の位置付けを理解できるようにする。

個別の興味・関心に応じた追究する内容を設定する。

- 単元の課題の解決に向けて、興味・関心が高まった産業に関わる事柄を核として、追究する内容を設定する。

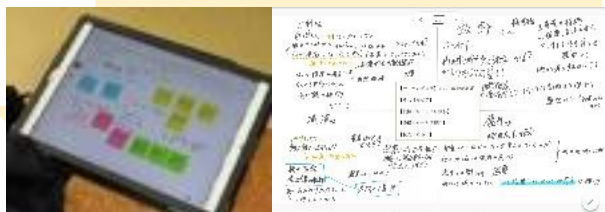


興味・関心に基づいた追究する内容の設定

- 個 単元の課題解決のために個々の興味・関心に基づいて追究する内容を設定することで、北海道の産業について、タブレット端末等を活用し「じゃがいも(農業)」「海の幸(漁業)」「製菓(酪農)」「雪まつり(観光業)」「アイヌに関すること(歴史→観光業)」などの具体的な情報を収集できるようにする。
- 個 外部人材への取材をすることで、追究する内容を新たな気付きから多面的・多角的に考察できるようにする。
- 個 プレゼンテーションソフトを選択させることで、自分のまとめをイメージ通りに表現できるようにする。

視点に基づいて、追究する内容の妥当性を話し合う。

- 追究する内容にアドバイスしてもらい、他者の意見や考えを参考にし、自らの考えを再構成する。



Jamboard を活用した協働学習

- 協 追究する内容について、単元で意識したい見方・考え方(変化・発展・背景・工夫・努力・願い・つながりなど)を提示することで、その妥当性について議論できるようにする。
- 協 他者からの意見やアドバイスを共有させることで、別の視点や立場からの新たな考えを加味して再構成ができるようにする。
- 協 Jamboard に気付きをメモさせることで、プレゼンター以外の参加者も新たな見方や考え方が共有できるようにする。

本時のまとめ・振り返りを行う。

- Jamboard にある友達からの意見やアドバイスを見返し、追究する内容の妥当性を自ら振り返る。



学びを記録し、次時の学びにつなげる

- 個 単元の課題に対する予想と意見交流での気付きを比較し関連させ振り返りシートに記入させることで、次時からの追究をどのように進めていくのか見通しをもたせるようにする。



Jamboard を使い、友達からの意見やアドバイスを共有したり、協働して妥当性を見いだしたりする活動を通して、自分では気付かなかった見方や考え方に出会ったり、信憑性のある情報や携わる人の声の重要性に気付いたりするようになり、北海道地方の地域的特色や課題を多面的・多角的に考察する力を高めることができた。

4. 成果と課題

実践を終えての成果

- ・ 追究する内容が妥当であるか、ロイロノートで設定理由を共有し議論することで、生徒は新たな視点や立場から追究する内容を見直すことができた。これらの学びやアドバイスを基にして再構成を行わせたことで、学びを自己調整し主体的に課題を解決しようとする生徒が増えた。
- ・ 自分の興味・関心などに応じて追究する内容を設定させ、必要に応じた情報を収集することで、生徒は課題解決に向けた意欲を高めることができた。また、ICT を活用（特にメール機能の活用）することでより詳しい情報をもつ外部人材と距離を超えてつながり、当事者の考えや思い、新たな考えを知ることができるようになり、そのような視点や立場から社会的事象を考察する力や方法を身に付けることができた。当事者の思いを知り、新たな考えに触れたことで課題を主体的に解決しようとする意欲がより高まった。
- ・ 教師が単元のスタートからゴールまでを見通し、生徒の意識に沿った単元構想を行ったことで、「追究する内容が違っていても、単元の課題に対する答えの共通点が見えてきた」「地域的特色の共通点が見つかった」「北海道地方の～という特殊性が見えた」「解決されずに残り続けている課題もあった」「群馬と比べると…」 「他の地域と比べると…」 のような発言や振り返りがあり、主体的に課題解決に向かい自分の生活や調査した内容を比較・関連付け、多面的・多角的に考察する力の高まりが見られた。

今後の課題

- ・ 導入において、ワークシートを用いて具体的な事実に関する知識の習得を試みたが、十分な時間を確保することができなかった。今後は、生徒の追究活動を観察し、提出されたプレゼンテーション資料を見て、追究する過程において押さえが甘い具体的な知識を把握し、プレゼンテーション資料に反映させるか、単元の課題に対する結論がまとまり振り返りを記入させた後に、知識を習得させる時間を確保する。
- ・ 追究する内容が異なることでテーマが幅広くなるため、生徒の追究活動に対する評価を具体的にしておく必要があった。そのため、生徒の追究活動を包括して評価できるようなルーブリックを作成し、それに基づいた評価をする。
- ・ 生徒の興味・関心から追究活動を行うことは、生徒の意欲の向く先を把握することや、取材したい企業や地方公共団体などが広範囲に渡るため、生徒自身がアポイントメントを取るスキルを身に付けてインタビューができるような環境を整備する。

<参考文献>

- 工藤 文三（2018）『平成29年改訂 中学校教育課程実践講座』 株式会社ぎょうせい
- 群馬県教育委員会（2019）『はばたく群馬の指導プランⅡ』
- 群馬県教育委員会（2019）『はばたく群馬の指導プランⅡ ICT活用 Version』
- 近藤 裕幸（2019）『見方・考え方を育てる中学地理授業モデル』 明治図書出版
- 澤井 陽介・加藤 寿朗（2017）『見方・考え方〔社会科編〕』 東洋館出版社
- 奈須 正裕（2022）『学びのパラダイムシフト』 内外教育
- 原田 智仁（2018）『中学校 新学習指導要領 社会の授業づくり』 明治図書出版
- 文部科学省（2018）『中学校学習指導要領解説 社会編』 東洋館出版社